

## 優 秀 賞

水との共存を目指して

下館中学校

二年 高野 滉 太

私が通う中学校近くの五行川は、穏やかで絶え間なく流れている。春は草花が川沿いに生い茂り穏やかで、夏は伝統の川渡御に荘厳な雰囲気漂い、秋はサケが遡上し清らかで、冬は水鳥が遊ぶ。四季それぞれ違う姿をみせながら私達の学校生活を応援してくれているように感じる。ボランティア活動などに積極的に参加して守りたい、大切な風景だ。

2015年9月「国連持続可能な開発サミット」で、水と衛生が持続可能な開発をするために不可欠であることを、世界各国の首脳が公に認めた。また、迫りくるグローバルな水危機を回避するために、緊急の水対策を呼びかけ、一滴一滴の水を大切にすることが必要であると発表された。水が、今や世界全体での

問題となっていることに驚いた。

水のない世界を想像してみる。飲水がなく、料理、入浴、トイレすらできなくなる。満腹感や衛生が保てなくなり、生活が苦しくなる。それどころか、人間の体の大半を占める水、水分がなくなっていく。植物が育たなくなり、光合成が止まり、私達は呼吸すらできなくなるのだ。

でも、蛇口をひねれば、きれいな水が豊富に出る。五行川では、釣りや散歩を人々が楽しんでいる。私達は水のない生活を経験したこともなければ、不足することすら知らない。

しかし、世界全体では水が原因となる病気や衛生面の問題が多発している。アフリカやアジアでは水が足りず、約8億4400万人が清潔な水を利用できていない。約23億人が適切なトイレを使えず、衛生を保てずに感染症や下痢などの原因となっている。不衛生な環境などが原因で、一分間で新生児が一人、二分間で五歳以下の子どもが一人、命を落としている。この作文を書いている時間にも、一人また一人と命を落としていると考えると心がチクチク

と痛む。

私は将来、世界中の人が平等に水と共存して生きられる地球であってほしい。水は、あらゆる生物の生命の源で、生活に欠かすことのできない存在。だからこそ、その大切さを認識し、水から与えられるだけでなく、私達人間も積極的に水を守るために行動をしなくてはならない。その第一歩として、自分の意識を大きく変えていきたい。まずは、身の回りの水について学び、考える。そして、水に支えられて生活していることに感謝し、水が限りある資源であると考えながら使用できるようにしたい。

日本の水の歴史をたどると、祖先が強い意志と豊富な知恵で守り繋いでくれたことを知った。現在の水一滴にもどれだけの人々の生きた証がたくさされているのだろうか。想像してみると、水は過去から現在、現在から未来へつながる尊い存在であることが感じられる。だからこそ、現在で絶やすことなく未来へ、よりよい水をつなぎたい。ほんの小さなステップだけど、私ができる小さな行動を続けることで、これからの未来を創っていきたい。それがこれから

の時代を担う私達にたくされた役目だと私は思っている。